

自然災害から命を守るための『自助』の備え

自分の命は自分で守る

防災・減災の要は、『自助』

防災センターって何の施設？

実は、久賀にある大島防災センターは山口県の施設なんです。
大きく3つの機能を持つ施設として、周防大島町が指定管理者となり運営しています。
南海トラフ地震発生時には、山口県の現地災害対策本部が設置されます。

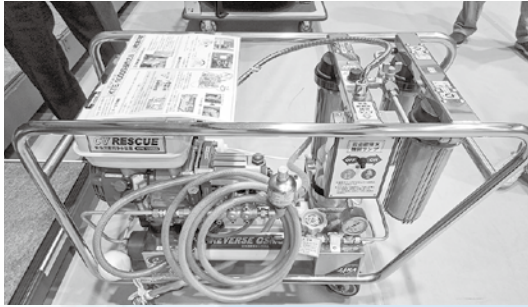
自助とは！

自分の命を守るため、日頃から避難経路や避難場所、備蓄品の確認、自宅の安全対策を行い、そして災害時に落ち着いて行動することです。



① 救援物資の備蓄・供給基地

大型倉庫には、非常食や飲料水、毛布、簡易トイレなどの備蓄品が保管されています。また、大規模停電に備えた「自家発電設備」や、海水や雨水から飲み水を作ることができる「特殊浄水器」も完備されています。



1時間に約200ℓの飲み水が作れます

② 防災広場

平時、スポーツ等に利用されている広場は、有事の際、自衛隊の待機場所や支援物資を搬入・集積する拠点にもなります。



耐荷重100kgのストレッチャーを常備

③ 防災を正しく学ぶ施設

館内のエントランスには、津波の発生メカニズムの模型、地面がドロドロになる液状化現象の実験装置などが常設されています。また、非常持出袋の見本や簡易トイレなども展示されており、平時は誰もが見て、体験しながら防災を正しく学べる貴重な施設となっています。



意外と温かく、快適な紙製の防災寝袋とダンボールベッド

東日本大震災の教訓に学ぶ

《被災地で商品が買えるようになった時期》

品名	仙台	盛岡
水やパンなどの主食	20.3日	16.9日
肉・魚・野菜などの生鮮食品	18.3日	17.2日
インスタント食品・冷凍食品	19.3日	15.8日
水	17.8日	21.6日
ベビー用品・介護用品	14.6日	24.2日
ガソリン	22.9日	20.2日
懐中電灯	26.6日	26.8日
カセットコンロなど調理器具	20.3日	21.3日
使い捨てカイロ・防寒用品	16日	21.2日
乾電池	25.1日	29.3日

参考「東日本大震災におけるモノ不足」「東日本大震災特別論文集」

《備えておくべきもの10選》

1	懐中電灯
2	水
3	携帯ラジオ
4	食料
5	乾電池 モバイルバッテリー
6	卓上コンロ
7	タオル
8	現金（小銭・千円札）
9	ポリタンク
10	救急セット

参考（財団法人消防科学総合センター）「大地震被災経験者に聞く『被災時にあってよかったもの』調査」

家族で防災について話し合おう

実際に地震が発生したときを想定し、以下の6つは必ず家族で話し合っておきましょう！

1. 役割分担を決める
（日常の対策や、高齢者・乳幼児の保護担当を決める）
2. 危険箇所をチェック
（家の内外をチェックし、補強方法を話し合う）
3. 安全な空間を確保
（家具の配置換え、転倒・落下を防ぐ方法を決める）
4. 非常持出品のチェック
（必要なものが揃っているか、定期的に期限を点検する）
5. 防災用具などの確認
（消火器や救急箱の置き場所、使い方、応急手当を覚える）
6. 連絡方法や避難場所の確認
（離ればなれになったときの連絡方法や、避難経路の下見をする）



浅原家でも早速防災会議を行いました

避難所と避難場所は違う！

避難所

自宅が被災して帰れない方が一定期間生活を送るための施設です。



避難場所

自然災害や火災などの危険から緊急的に逃げ込む場所です。



「自らの命は自ら守る」意識を持って自らの判断で避難行動

まずは、自分が助かる行動をとることが大切で、自助なくして共助と公助は機能しません。しっかりと自助に取り組んでいきましょう。